

(2) 形成的評価の結果と補充計画

単元の目標分析を行い、単元で定着させるべき内容と単位時間の目標の関係を明らかにする。

次に単位時間を実施する形成的評価の方法と補充計画を立てて、形成的評価で未達成な内容について個別指導に役立てるようにすることが大切である。以下はその例の一部である。

記号 ・ v 5問中4問以上正答80%以上達成 ・ □評価できなかった項目  
 ・ xの後の番号は評価問題誤答番号 ・ ●教科書

上位目標	(1)			補 充 問 題
下位目標	①	②	③	(1) の ③
評価の方法	小テスト(ノート) ● P14	発 表	小テスト(用紙)	プリント(レディネステスト)として4時目を実施する。
評価問題	① 36 ② 8 ③ 83 + 2 +61 + 2	ひっ算	①13+43 ②16+21 ③22+24	① 12+23 ② 15+4 ③ 72+24 ④ 25+52
氏名	④ 73 ⑤ 4 + 5 +53	の意味	④54+32 ⑤11+78	⑤ 3+16
T・Z	v		v	v
H・P	×② 67		×② 82	計算ミス目立つドリル練習
R・O	v	v	③ 64 ④ 86	一の位と十の位を間違えて加えている。
全 体	①の下位目標については、通過率90%以上なので、②の目標について総括的評価について達成度をみる。			

※ 上位目標, 下位目標の内容については省略

(3) 観点別正答率の変容を把握する個人カルテ

単元末に観点別達成度評価を行い、その結果を単元ごとにグラフに表し、子供一人一人の能力・適性に応じた指導をする。次の例は個人カルテの一部である。A 数と計算 番号(5)氏名 T・Z

観 点	単 元	かずとすうじ	なんばんめ	いくつといくつ	たしざん1	ひきざん1	観 点 ごと 全体 の 反省
知識・理解	正答率	20	50	80	40	60	かずとすうじ, たし算1の単元が低い。数の概念について, 個別指導するとともに授業中落ち着いた学習をさせたい。
	問題数	5	10	5	5	5	
技 能	正答率	70	80	80	90	100	いくつといくつの単元でフラッシュカードにより反復練習したためか, 計算技能が身につけてきた。
	問題数	10	5	5	10	10	
数学的な考え	正答率		20	50	20	50	達成不十分な単元が多い。計算はともかく, 数に興味を持たせて, 文章問題もじっくりと考える習慣を育てたい。
	問題数		4	2	4	4	
関心・態度	+ 0 -	+ ① -	+ 0 -	+ ① -	+ 0 -	+ 0 -	計算が好きで「問題を出して」と意欲的になってきた。
単元の反省		一対一対応が難しそうだ。鐘の音など数えるのに抵抗がある。	順序数については理解できる。	10は4と6など加水分解がよくできるようになってきた。	一位数なら手を使わないでできるようにになってきた。	数学的な考え方を育てていきたい。	計算に興味を持ってきたことを他の領域にも生かす。新しい概念指導の時, 具体物など利用し, 着実に知識を身に付けさせる。

おわりに

「先生, もうちょっと」とねだるような授業が時々ある。限られた時間の中で, 子供達が精一杯活動し生き生きとしている。ゆとりある授業を展開して一人一人の個性が生かされたときに見られることである。そのためには, ・単元を見通した指導計画・最適に工夫された学習形態・学習意欲に支えられた課題追究・年間を見通した評価計画・形成的評価を生かした補充計画・変容を把握する個人カルテ等が特に有効であると考えられる。

これからも,

B子「 $12 < 7 + 6$  とか  $13 = 7 + 6$  はどうしてこういうふうになっているのかな」

と, ゆとりをもって考えられる授業を展開していけるように, 努力していきたい。